

平成 30 事業年度に係る業務の実績に関する報告書 正誤表

国立大学法人秋田大学

通し 番号	該当の頁・箇所	誤	正
1	4 頁・右側下段	<p>■アクティブ・ラーニングの実践と P B L 教育の展開に向けた取組【計画番号 4】</p> <p>(略) 同プログラムは、県内企業<u>6</u>社の課題提供を受け、(略) 同プログラムで最新の現場課題に触れた<u>6</u>チームの学生が、(略)</p>	<p>■アクティブ・ラーニングの実践と P B L 教育の展開に向けた取組【計画番号 4】</p> <p>(略) 同プログラムは、県内企業<u>7</u>社の課題提供を受け、(略) 同プログラムで最新の現場課題に触れた<u>7</u>チームの学生が、(略)</p>
2	17 頁・ 年度計画【32-2】実施状況	<p>(1) (略) 上昇した要因としては、<u>I-E P A</u> (集中大学英语) による成果と (略)</p> <p>(3) (略) 継続して実施してきた英語教育 (<u>I-E P A</u>, ディスカッション演習, ディベート演習, クリエイティブ演習) (略)</p>	<p>(1) (略) 上昇した要因としては、<u>I-E A P</u> (集中大学英语) による成果と (略)</p> <p>(3) (略) 継続して実施してきた英語教育 (<u>I-E A P</u>, ディスカッション演習, ディベート演習, クリエイティブ演習) (略)</p>
3	18 頁・ 年度計画【33-1】実施状況	<p>(略) 大学間協定並びに本学初となる国際資源学 研究科<u>資源地球学専攻</u> (博士前期課程) と (略)</p>	<p>(略) 大学間協定並びに本学初となる国際資源学 研究科<u>資源地球科学専攻</u> (博士前期課程) と (略)</p>
4	11 頁・右側中段	<p>■薬剤耐性対策推進国民啓発会議議長賞を受賞</p> <p>(略) 中心となって組織する<u>秋田県感染症対策協議会</u>における取組が、(略)</p> <p>(略) 現在の<u>秋田県感染症対策協議会</u>となるまで 35 年にわたって (略)</p>	<p>■薬剤耐性対策推進国民啓発会議議長賞を受賞</p> <p>(略) 中心となって組織する<u>秋田県感染対策協議会</u>における取組が、(略)</p> <p>(略) 現在の<u>秋田県感染対策協議会</u>となるまで 35 年にわたって (略)</p>